

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月1日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 セガトイズ

コード番号 7842 URL <http://www.segatoys.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 義治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 経営統括本部長 (氏名) 菅野 暁

TEL 03-5822-6244

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	13,988	△7.3	△119	—	△111	—	△1,435	—
21年3月期第3四半期	15,083	—	219	—	121	—	109	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△66.66	—
21年3月期第3四半期	5.11	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	6,524	2,410	28.7	86.83
21年3月期	6,602	3,328	50.1	153.59

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 1,870百万円 21年3月期 3,307百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,000	△5.0	△180	—	△200	—	△1,500	—	△69.65

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 1社(社名 爆丸有限責任事業組合) 除外 1社

(注) 詳細は、8ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、8ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、8ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	21,536,100株	21年3月期	21,536,100株
---------------------	-------------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	1株	21年3月期	1株
-----------	-------------	----	--------	----

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	21,536,100株	21年3月期第3四半期	21,521,373株
----------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係わる本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績等は、経済情勢、市場動向など様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は企業収益の改善の兆しが見られるものの、依然として先行きの不透明な状況が続いており、個人消費についても失業率が高水準を維持するなど厳しい雇用情勢、所得環境の悪化を反映し、未だ回復の兆しを見せておらず、生活防衛意識や節約志向が高まるなど弱含みに推移いたしました。

このような状況の中、当社グループはコアコンピタンスであるデジタル技術の活用や他社とのアライアンス等を通じ、新しい価値の創造、新しい市場の開拓に取り組んでまいりました。また当期は、以下の4項目を重点目標に掲げ業績の改善に努めており、当第3四半期連結累計期間における進捗は以下の通りであります。

## ①国内事業の復活

当社は引き続き、事業そして製品の「選択と集中」による効率化を図ることにより、国内事業の早期回復を目指しております。玩具業界の最大の商戦期である第3四半期におきましては、「つきたておもちゃくるりんもっちゃん」や「くるりんアイスクリン」をはじめとするクッキングトイや、子供だけでなくシニアにも人気の「夢ねこヴィーナス」、NHK教育番組の新キャラクター「モノランモノラン」の関連商品が好調に推移したほか、定番シリーズである「ホームスター」、「スプレーアート」、アンパンマンシリーズなど堅調に推移しました。しかしながら、個人消費が低迷している影響を受けたこともあり、全般的には低調に推移した結果、当第3四半期連結累計期間における国内売上高は前年同期比19.2%減となる5,141百万円と前年同期を大きく下回る結果となりました。今後も引き続き「選択と集中」により事業の育成、定番、チャレンジ、撤退を明確化するとともに、来期以降における事業ドメインの見直しを行い、早期の収益回復を図ってまいります。

## ②グローバル事業の拡大

海外事業につきましては、男児向けキャラクター「爆丸」(BAKUGAN)が北米や欧州を含む全世界で引き続き好調に推移しており、海外売上高は前年同期比1.5%増となる8,847百万円となりました。今後は「爆丸」だけでなく、新たなグローバル展開が可能となるような魅力的なコンテンツの開発にも引き続き取り組んでまいります。

## ③子会社の再構築

現在当社ではグループ経営の効率化に向け、連結子会社を含めた当社グループ全体での事業の再構築を行っております。当第3四半期連結累計期間においては、連結子会社である株式会社レムアートを解散した他、連結子会社の株式会社タイヨーについても、現在及び将来に亘るラジオコントロール玩具事業の市場環境、損益構造並びに保有する競争優位性を検討した結果、今後収益を確保することが困難と判断し、平成22年1月末に解散いたしました。このように収益性の低い事業を見直す一方で、当社の業績を大きく牽引している「爆丸」については、海外事業にとどまらず当第4四半期より日本市場での再展開を計画しており、セガサミーグループ各社が総力をあげてそれぞれの強みを活かすことでグループシナジーを発揮できるよう、爆丸有限責任事業組合(以下、爆丸LLP)を平成21年11月18日に設立いたしました。来期以降、爆丸LLPを中心に「爆丸」をセガサミーグループで総力をあげてマルチに展開することで、より大きなシナジーが生まれるものと期待しています。引き続き当社グループはその経営資源をより効率的に配分することで売上高、利益の両面での改善に取り組んでまいります。

## ④組織機能の改革

前期より導入した「執行役員制」により、責任権限を委譲し意思決定のスピードアップを行っております。また、平成21年12月に代表取締役及び取締役の異動を行い、新たな経営執行体制をスタートさせております。さらに、平成22年1月、「事業別収益の最大化と機能別費用の最小化を同時に実現する」、「事業別の利益責任を明確化する」、「常にグローバル市場を見据えた事業を展開する」、こと等を目的として“完全事業部制”へ移行いたしました。これにより、「効率的な事業運営による収益力向上」や「これまで以上の素早い環境変化への対応」等の経営課題に対する体制を整えることができました。今後は、生産機能の集約や流通の効率化等によるコスト構造の抜本的な改革、グローバル販売ネットワーク構築等による収益機会の獲得、セガサミーグループ内の事業シナジー強化等に継続的に取り組み、更なる収益力の向上を目指してまいります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、海外において「爆丸」が引き続き好調に推移したものの、国内売上高が前年同期を大きく下回ったため、売上高13,988百万円(前年同期比7.3%減)となりました。

利益については、選択と集中による販売費及び一般管理費の効率化を推進したものの、売上総利益率の高い国内売上高が低調に推移したことから、海外事業による利益面での国内事業の赤字をカバーするには至らず営業損失119百万円(前年同期は営業利益219百万円)、経常損失111百万円(前年同期は経常利益121百万円)となりました。

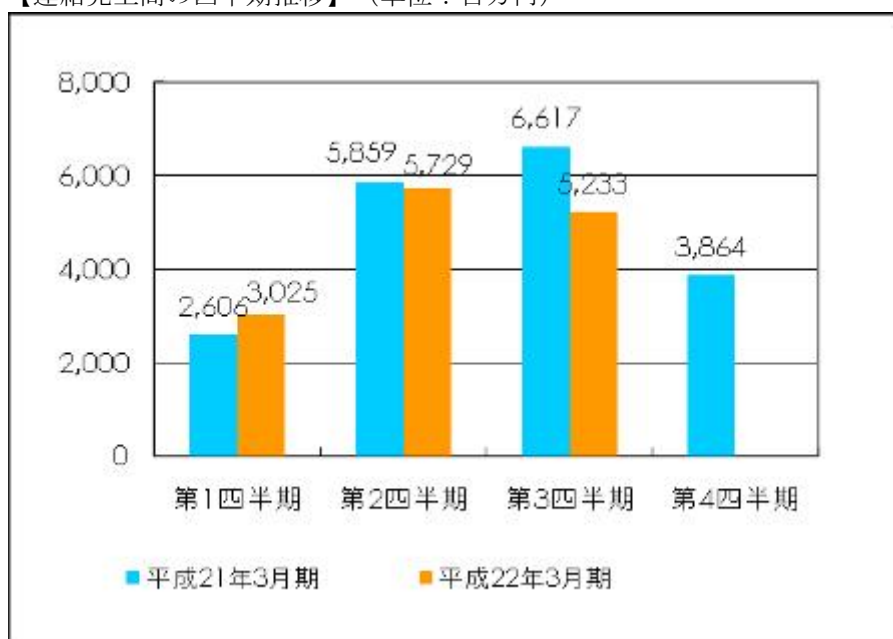
また、現在、当社を含めたグループ全体の再構築を図っており、当第3四半期連結累計期間においては、連結子会社である株式会社レムアート及び株式会社タイヨーの解散に伴う子会社整理損468百万円を計上いたしました。さらに、収益改善を目的とした固定費削減として早期退職プログラムによる特別退職金にかかる費用や、事業の見直しによる製品評価損等を事業整理損として476百万円を計上いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の特別損失は1,102百万円となり、四半期純損失は1,435百万円（前年同期は四半期純利益109百万円）となりました。

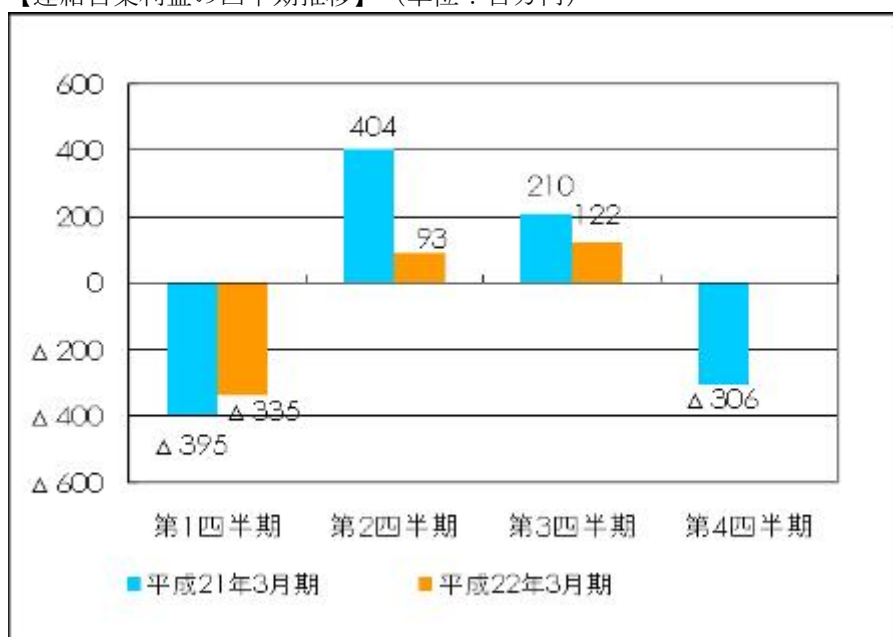
<当社グループの通期及び四半期業績の特性について>

玩具業界においてはクリスマス及び年始商戦が最大の商戦期であることから、売上高については第3四半期が最も多く、第1四半期及び第4四半期が相対的に少なくなる傾向があります。また、営業利益については第1四半期及び第4四半期の売上高の絶対額が少なくと営業損失となり、第3四半期はその年の在庫処理費用を多く計上すると、売上高の伸びと同じ率では増加しない傾向があります。

【連結売上高の四半期推移】（単位：百万円）



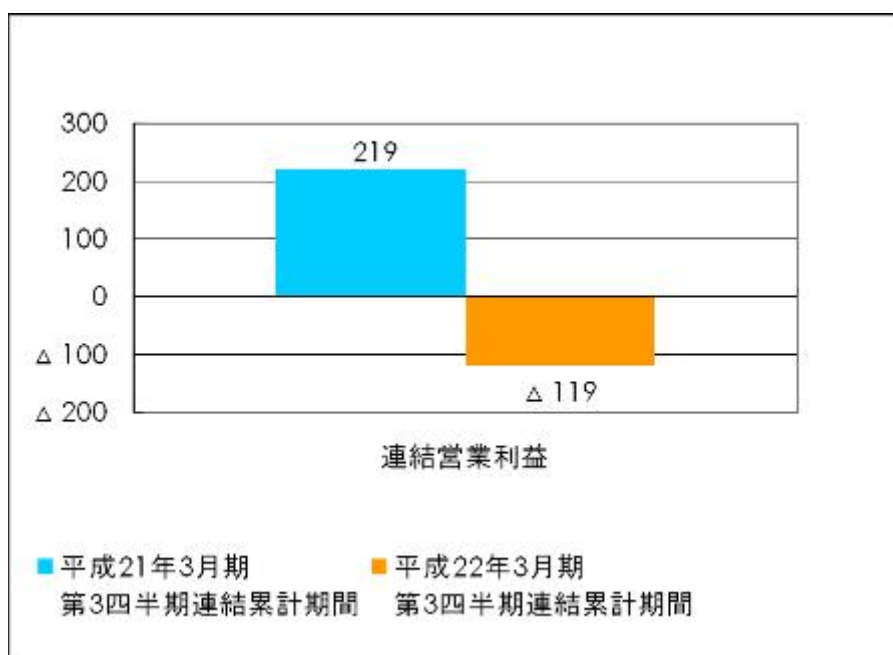
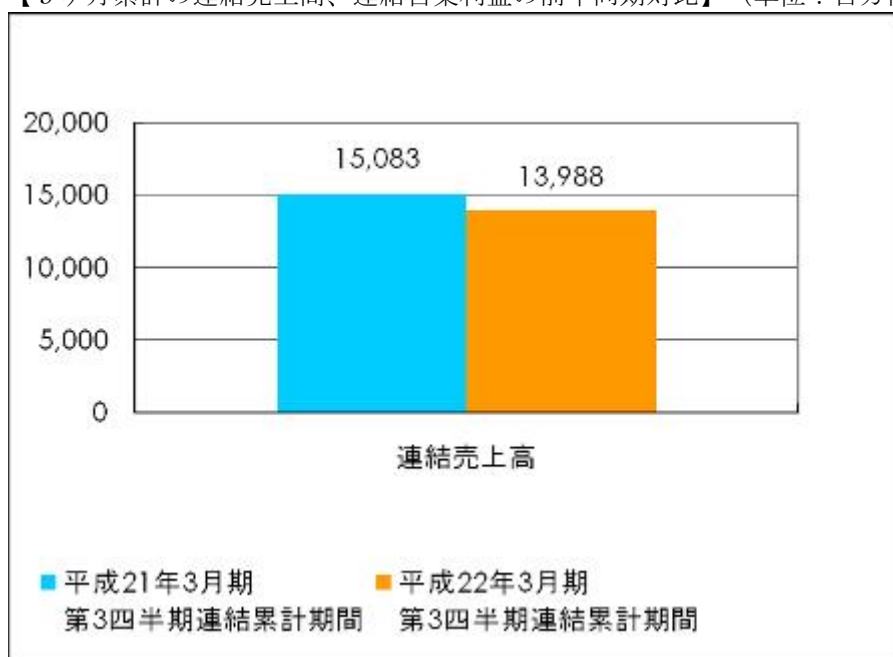
【連結営業利益の四半期推移】（単位：百万円）



<前年同期との対比による9ヶ月累計連結業績>

当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高13,988百万円（前年比7.3%減）、営業損失119百万円（前年同期は営業利益219百万円）、経常損失111百万円（前年同期は経常利益121百万円）、四半期純損失1,435百万円（前年同期は四半期純利益109百万円）となりました。

【9ヶ月累計の連結売上高、連結営業利益の前年同期対比】（単位：百万円）



＜カテゴリ別連結売上高、連結営業利益＞

【カテゴリ別の連結売上高、連結営業利益の前年同期対比】（単位：百万円）

		平成21年3月期 第3四半期 連結累計期間	平成22年3月期 第3四半期 連結累計期間	前期比	
玩具事業	エデュテイメント 関連	連結売上高	730	729	△ 0.0%
		連結営業利益	△ 100	△ 19	—
	ファミリーエンター テイメント関連	連結売上高	3,691	1,419	△ 61.6%
		連結営業利益	△ 8	△ 434	—
	NEWコンテンツ ビジネス関連	連結売上高	8,985	10,635	+ 18.4%
		連結営業利益	399	517	+ 29.4%
	ホビー関連 その他	連結売上高	1,453	950	△ 34.6%
		連結営業利益	△ 89	△ 274	—
玩具事業 計		連結売上高	14,860	13,735	△ 7.6%
		連結営業利益	201	△ 210	—
その他事業		連結売上高	222	253	+ 14.0%
		連結営業利益	17	91	+ 413.2%
合 計		連結売上高	15,083	13,988	△ 7.3%
		連結営業利益	219	△ 119	—

(カテゴリ別の連結売上高の国内・海外内訳)

①玩具事業

エデュテイメント関連につきましては、ビーナシリーズの男児向けソフト「ポケットモンスターダイヤモンド・パール ポケモンをさがせ！ めいろうでだいぼうけん！」や、低年齢向けペリフェラルソフト「それいけ！アンパンマン おみせがいっぱい TVでおよろいづくっちゃお」などの製品を新たに投入いたしました。これにより、ほぼ前年同期並みに推移した結果、売上高729百万円（前年同期比0.0%減）、営業損失19百万円（前年同期は営業損失100百万円）となりました。

ファミリーエンターテイメント関連につきましては、国内においては「ホームスター」シリーズが好調に推移しましたものの、「家あげ花火」、「夢ペット」シリーズなどの大人向けエンターテイメント製品が低調に推移しました。海外においては「ホームスター」が前期に引き続き好調に推移しましたが、前期まで好調に推移していた「idog」シリーズの販売が終焉したことなどにより大きく前期を下回りました。これにより、売上高1,419百万円（前年同期比61.6%減）、営業損失434百万円（前年同期は営業損失8百万円）となりました。

NEWコンテンツビジネス関連につきましては、国内は定番製品のアンパンマンシリーズやNHK教育番組の新キャラクター「モノランモノラン」の関連商品が堅調に推移したことに加え、海外は「爆丸2」が北米で好調に推移したほか、欧米市場でもヒットしたことにより好調に推移しました。これにより、売上高10,635百万円（前年同期比18.4%増）、営業利益517万円（前年同期比29.4%増）となりました。

ホビー関連その他につきましては、既に解散が決定しております連結子会社の株式会社タイヨーのラジオコントロール玩具の販売不振による売上高の大幅な減少の影響もあり、売上高950百万円（前年同期比34.6%減）、営業損失274百万円（前年同期は営業損失89百万円）となりました。

②その他事業

その他事業につきましては、モバイルコンテンツ収入及びライセンス収入が減少した反面、利益率の高い映像出資からの収入が増加したため、売上高253百万円（前年同期比14.0%増）、営業利益91百万円（前年同期比413.2%増）となりました。

## ＜国内・海外別連結売上高、連結営業利益＞

【国内・海外別の連結売上高、連結営業利益の前年同期対比】（単位：百万円）

		平成21年3月期 第3四半期 連結累計期間	平成22年3月期 第3四半期 連結累計期間	前期比
国内	連結売上高	6,365	5,141	△ 19.2%
	連結営業利益	△ 674	△ 809	—
海外	連結売上高	8,718	8,847	+ 1.5%
	連結営業利益	893	690	△ 22.7%
合計	連結売上高	15,083	13,988	△ 7.3%
	連結営業利益	219	△ 119	—

（連結売上高の国内・海外内訳）

当第3四半期連結累計期間における国内売上高は5,141百万円（前年同期比19.2%減）となり、前年同期を大きく下回りました。当期話題のクッキングトイの新製品「つきたておもちゃ くるりんもっちー」や、家の中で花火大会の気分が楽しめる「家あげ花火」、子供だけでなくシニアにも人気の「夢ねこヴィーナス」、NHK教育番組の新キャラクター「モノランモノラン」などの新製品を発売しました。定番シリーズである「ホームスター」、「スプレーアート」、アンパンマンシリーズなどは好調に推移しましたが、折からの消費不況の影響もあり全般的には低調に推移し、連結子会社である株式会社タイヨーのラジオコントロール玩具の販売不振も影響しました。

海外売上高は「爆丸」が引き続き好調に推移したことにより8,847百万円（前年同期比1.5%増）と、前年同期をやや上回る結果となりました。

（連結営業利益の国内・海外内訳）

当第3四半期連結累計期間における国内事業の売上高の減少に伴い前年同期を大幅に下回りました。この結果、営業損失は809百万円（前年同期は営業損失674百万円）となりました。一方、海外事業につきましては、「爆丸」の販売が引き続き好調に推移したものの、前期まで好調に推移していた「idog」シリーズの販売が終焉期を迎えたため、営業利益690百万円（前年同期比22.7%減）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ78百万円減少し、6,524百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が180百万円、たな卸資産が529百万円、有形固定資産及び無形固定資産等固定資産が195百万円減少しましたが、受取手形及び売掛金が1,083百万円増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ840百万円増加し、4,114百万円となりました。主な要因は、短期借入金470百万円増加し、社債が302百万円増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ918百万円減少し、2,410百万円となりました。主な要因は、四半期純損失を1,435百万円計上したこと等によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末比で180百万円減少し、2,082百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における営業活動の結果、減少した資金は1,159百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失1,214百万円を計上したことに加え、売上債権が1,102百万円増加したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における投資活動の結果、減少した資金は388百万円となりました。これは主に、金型などの有形固定資産の取得による支出386百万円、ソフトウェア等無形固定資産の取得による支出15百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における財務活動の結果、増加した資金は1,335百万円となりました。これは主に、社債の償還による支出が198百万円あった反面、短期借入金の純増額470百万円、社債の発行による収入490百万円及び当社連結子会社である爆丸有限責任事業組合への少数株主からの払込による収入500百万円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期通期の業績予想につきましては、平成21年10月28日に公表いたしました「平成22年3月期業績予想の修正、特別損失の発生並びに配当予想の修正に関するお知らせ」に記載の見通しに変更はありません。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

当第3四半期連結会計期間より「爆丸有限責任事業組合」を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実施棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

在外子会社の収益及び費用の換算方法

従来、在外子会社の収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更いたしました。

この変更は、著しい為替相場の変動により、在外連結子会社の経営成績を正しく表示できない可能性があるため、変動が少ない平均の為替相場を用いることにより、より実状に即した企業状況を表示するために行ったものであります。

この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。



5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,087,551	2,267,768
受取手形及び売掛金	3,026,724	1,943,721
たな卸資産	466,814	996,520
繰延税金資産	811	82,692
その他	214,615	391,723
貸倒引当金	△2,837	△4,333
流動資産合計	5,793,680	5,678,094
固定資産		
有形固定資産	397,927	448,557
無形固定資産	65,336	164,708
投資その他の資産		
その他	257,275	311,357
貸倒引当金	△18,774	△27,599
投資その他の資産合計	238,500	283,758
固定資産合計	701,765	897,023
繰延資産	29,392	27,765
資産合計	6,524,838	6,602,882
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	890,258	1,212,389
短期借入金	500,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	50,000	—
1年内償還予定の社債	633,500	349,750
未払法人税等	16,447	636
その他	899,176	597,639
流動負債合計	2,989,383	2,190,416
固定負債		
社債	1,087,500	1,069,250
長期借入金	25,000	—
その他	12,586	14,444
固定負債合計	1,125,086	1,083,694
負債合計	4,114,469	3,274,110

(単位:千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,735,684	1,735,684
資本剰余金	1,755,785	1,755,785
利益剰余金	△1,613,925	△178,293
株主資本合計	1,877,543	3,313,176
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△169	△351
繰延ヘッジ損益	409	—
為替換算調整勘定	△7,741	△5,188
評価・換算差額等合計	△7,501	△5,540
新株予約権	47,762	21,136
少数株主持分	492,564	—
純資産合計	2,410,368	3,328,772
負債純資産合計	6,524,838	6,602,882

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	15,083,397	13,988,788
売上原価	11,662,402	11,277,324
売上総利益	3,420,995	2,711,464
販売費及び一般管理費	3,201,827	2,830,789
営業利益又は営業損失(△)	219,168	△119,324
営業外収益		
受取利息	1,670	140
為替差益	—	11,497
投資事業組合収益	15,007	9,213
その他	7,246	19,806
営業外収益合計	23,924	40,656
営業外費用		
支払利息	11,807	15,237
支払保証料	6,732	8,570
為替差損	92,187	—
社債発行費償却	—	8,162
その他	10,449	1,276
営業外費用合計	121,176	33,246
経常利益又は経常損失(△)	121,916	△111,914
特別損失		
子会社整理損	—	468,635
事業整理損	—	476,110
減損損失	—	55,459
その他	—	101,915
特別損失合計	—	1,102,122
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	121,916	△1,214,036
法人税、住民税及び事業税	6,172	108,891
法人税等調整額	9,203	119,846
法人税等合計	15,375	228,737
少数株主損失(△)	△3,422	△7,141
四半期純利益又は四半期純損失(△)	109,963	△1,435,632

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	6,617,492	5,233,128
売上原価	5,223,137	4,125,031
売上総利益	1,394,355	1,108,097
販売費及び一般管理費	1,184,054	985,576
営業利益	210,300	122,520
営業外収益		
受取利息	22	9
為替差益	—	21,391
投資事業組合収益	6,839	5,137
その他	2,199	1,334
営業外収益合計	9,061	27,873
営業外費用		
支払利息	4,362	6,029
支払保証料	2,775	2,944
社債発行費償却	—	2,992
為替差損	72,485	—
その他	4,796	277
営業外費用合計	84,419	12,244
経常利益	134,943	138,149
特別損失		
子会社整理損	—	96,691
事業整理損	—	476,110
減損損失	—	55,459
その他	—	101,915
特別損失合計	—	730,177
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	134,943	△592,028
法人税、住民税及び事業税	1,408	34,571
法人税等調整額	7,874	612
法人税等合計	9,282	35,183
少数株主損失(△)	△808	△7,141
四半期純利益又は四半期純損失(△)	126,469	△620,070

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	121,916	△1,214,036
減価償却費	370,288	307,042
のれん償却額	25,298	16,865
貸倒引当金の増減額(△は減少)	13,832	△10,321
受取利息及び受取配当金	△1,694	△162
支払利息	11,807	15,237
為替差損益(△は益)	△97,756	△34,535
子会社整理損	—	468,635
減損損失	—	55,459
事業整理損失	—	476,110
売上債権の増減額(△は増加)	△2,067,749	△1,102,672
たな卸資産の増減額(△は増加)	193,610	64,184
仕入債務の増減額(△は減少)	322,769	△359,062
未払費用の増減額(△は減少)	60,023	296,429
特別退職金の支払額	—	△41,299
その他	53,380	△62,476
小計	△994,272	△1,124,600
利息及び配当金の受取額	8,186	162
利息の支払額	△7,356	△14,785
法人税等の支払額	△34,536	△19,852
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,027,979	△1,159,075
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	500,000	—
有形固定資産の取得による支出	△334,743	△386,255
無形固定資産の取得による支出	△33,397	△15,368
ゴルフ会員権の売却による収入	—	12,922
その他	1,302	63
投資活動によるキャッシュ・フロー	133,161	△388,638

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△400,000	470,000
長期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△30,000	△25,000
社債の発行による収入	929,299	490,210
社債の償還による支出	△600,500	△198,000
少数株主からの払込みによる収入	—	500,000
株式の発行による収入	11,229	—
リース債務の返済による支出	△1,342	△1,857
配当金の支払額	△486	△134
財務活動によるキャッシュ・フロー	△91,800	1,335,218
現金及び現金同等物に係る換算差額	94,642	32,277
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△891,975	△180,217
現金及び現金同等物の期首残高	1,601,003	2,262,768
現金及び現金同等物の四半期末残高	709,027	2,082,551

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

## 【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)並びに前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

当社連結グループは、玩具の企画、開発及び販売を主たる事業としておりますが、当該事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

## 【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)並びに前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

当社連結グループは、在外子会社が1社存在しますが、当該所在地における売上高の金額は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が10%未満であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

## 【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	北米	アジア	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	3,881,230	216,473	217,006	47,810	4,362,521
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	6,617,492
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	58.7	3.3	3.3	0.7	65.9

(注)1 地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する地域の主な内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 …… 米国、カナダ
- (2) アジア …… 韓国、台湾、シンガポール
- (3) ヨーロッパ …… イギリス、フランス、ドイツ
- (4) その他の地域 …… オーストラリア

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	北米	アジア	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	1,595,615	401,386	677,890	181,269	2,856,161
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	5,233,128
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	30.5	7.7	12.9	3.5	54.6

(注)1 地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する地域の主な内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 …… 米国、カナダ
- (2) アジア …… 香港、シンガポール
- (3) ヨーロッパ …… イギリス、フランス、ドイツ、スペイン
- (4) その他の地域 …… オーストラリア

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	北米	アジア	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	7,082,063	660,392	819,445	156,423	8,718,325
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	15,083,397
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	47.0	4.4	5.4	1.0	57.8

(注) 1 地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する地域の主な内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 …… 米国、カナダ
- (2) アジア …… 韓国、台湾、シンガポール
- (3) ヨーロッパ …… イギリス、フランス、ドイツ
- (4) その他の地域 …… オーストラリア

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	北米	アジア	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	5,205,331	958,382	2,050,720	633,230	8,847,665
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	13,988,788
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	37.2	6.8	14.7	4.5	63.2

(注) 1 地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する地域の主な内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 …… 米国、カナダ
- (2) アジア …… 香港、シンガポール
- (3) ヨーロッパ …… イギリス、フランス、ドイツ、スペイン
- (4) その他の地域 …… オーストラリア

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。